

第2回スポーツファシリティーズ大賞

第2回スポーツファシリティーズ大賞については、4月2日（火）に行われたスポーツファシリティーズ大賞選考委員会において下記の通り受賞者が決定し、令和元年6月13日（木）に愛媛県松山市で開催された第80回全国体育施設研究協議大会において表彰されました。

◎ スポーツ庁長官賞【施設計画部門】

施設名：「高松市屋島競技場（屋島レクザムフィールド）」応募者：（株）佐藤総合計画関西オフィス

- ・ スタンドの立ち上がりなどが、外部から見た時の圧迫感を抑える工夫をしており、「屋島」の景観と近隣住宅への影響を配慮した設計になっている。
また、日本初の公認室内棒高跳び競技場を備えていることに加え、一般利用者を想定したバリアフリーで周回できるコンコースも備えており、障がい者の大会での評価も高く、シンプルでコンパクトにまとまっており、他の地域でも参考となる施設であること等を総合的に評価した。

◎ 公益財団法人日本体育施設協会会長賞

【施設計画部門】

施設名：「北九州スタジアム（ミクニワールドスタジアム北九州）」応募者：（株）ウインドシップ北九州

- ・ 街中のスタジアムとして利便性が高く、地域の活性化につながることを期待できる施設である。海に近いという立地のため塩害対策が課題になると予想されるが、限られた敷地の中でコンパクトにまとめられていることなどは評価できる。

施設名：「みなとパーク芝浦」応募者：（株）NTTファシリティーズ

- ・ 駅からのアクセスも良く、都市型複合施設としては優れた施設である。スポーツ施設としてはやや一般的な印象があるが、建物全体の省エネ対策やプールの膜天井による安全性の高さなどは評価できる。

【器具・機材部門】

名称：「スポーツ施設用舗装材（スポーツターフΛ）」応募者：日本体育施設（株）

- ・ 人工芝グラウンドは多目的に利用できて管理しやすいという利点があるが、陸上競技の投てき種目では、投げた後の痕跡が残らないため、陸上競技場として使用することができなかった。その課題を解消できたこと等を評価した。

名称：「Infinity（インフィニティ）」（競技用卓球台）応募者：（株）三英

- ・ 一般の卓球台と価格や汎用性等で比較するのは難しいが、オリンピック・パラリンピックの舞台上で卓球競技を華やかに演出したデザイン性は評価できる。
また、車いすを使用するパラ選手からの評価も高く、それらを評価した。